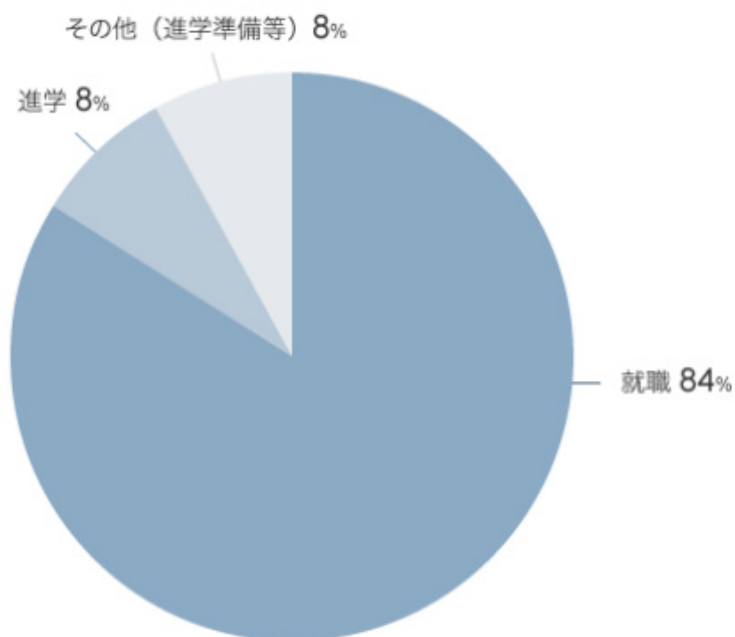


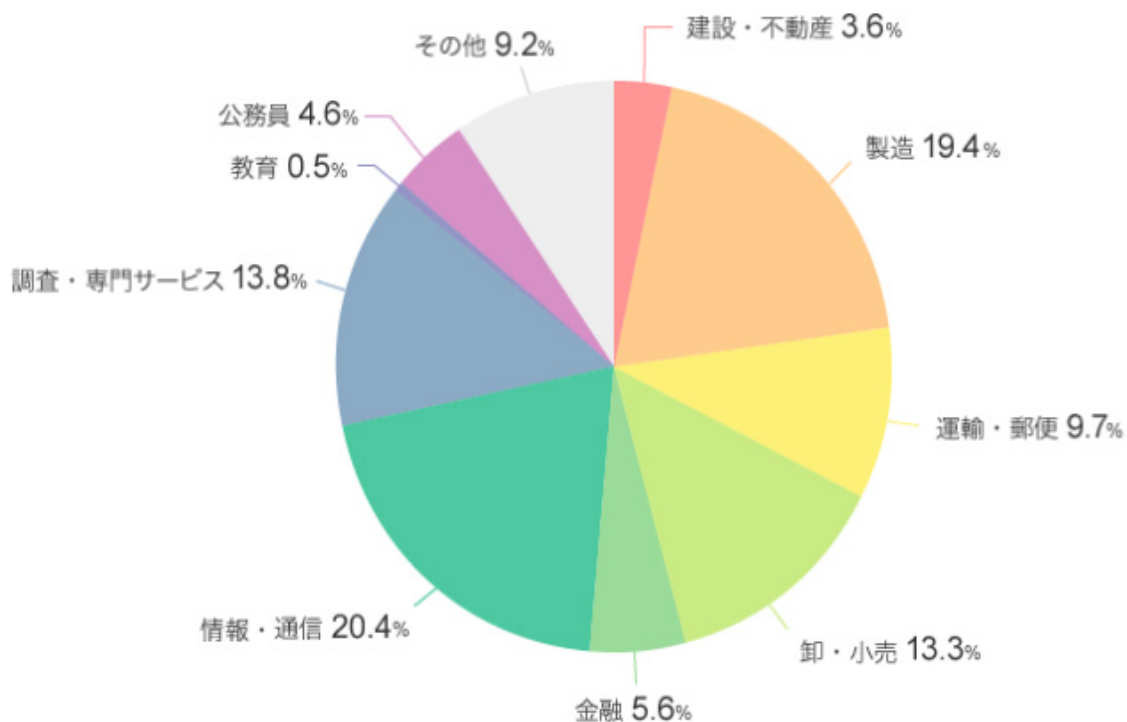
総合グローバル学部卒業生の進路・進学データ

総合グローバル学部の「2019年度進路・進学実績」は、以下の通りです。

卒業生：進路別内訳



就職：業種別内訳



総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	イグニション・ポイント株式会社		
氏名	RAN JUNJIE		
メジャー	国際政治論	マイナー	アジア研究
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「大学時代を振り返って」

内定先を選んだ理由：

テクノロジーの時代における最新事業に携わりたく、内定先を選んだ。私は在学中に起業した経験から各業界はテクノロジーによるイノベーションを意識する必要があると切実に感じた。今後、変革の時代に淘汰されず、必要とされる人材になるため、私は仕事で最先端領域の専門的な知識と経験を身につけたいと考えている。内定先の企業にはイノベーションを創り出そうという文化があり、それを良いと考える人材が多く集まっているので、同じ志向を持つ私にマッチしていると思う。

学生時代を振り返って：

大学時代、私は主にゼミと起業に力を入れた。私が所属していたゼミは楽ではない、伝説の渡辺ゼミである。死ぬかと思うほど大変だったが、意外にもそれが楽しかった。ゼミは活発に意見が出る場なので、様々な観点で仲間と交流ができ、自分の成長を日々感じる事ができた。また、週一回のブックレポートのおかげで、面白い本をたくさん読んだ。さらに、ゼミの友人達を中国の故郷に連れて行き、大切な思い出を作ることができた。

一方、大学二年の時に私は海外で起業し、日本語教育と日本への留学サービスを中心とした事業を展開した。しかし、毎月海外を行ったり来たりして多大な時間がかかり、大学生活と起業を両立させることの大変さを感じた。その上、最初は欠損がでてしまい、コスト削減のためにHPの作り方を学び、公式サイトは自作した。いろいろな苦労を経験したが後に業績が復活して黒字が実現され、今では三つ目のキャンパスを開校するまで事業が拡大した。

この4年間を振り返ると本当に忙しかった。ただ、有意義でもあった。

FGSを目指す皆さんに伝えたいこと：

まず自分の興味と関心を知ることが大事だと思う。FGSの学問に興味があれば有意義な四年間を過ごせるが、逆に国際関係や地域研究に興味がなければFGSである必要がない。頻繁に授業を欠席したり、授業中に寝たりせず、自分のやりたい事と夢を見つけ、充実した大学生活を送ることを心から願っている。頑張ってください。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（公務員）		
進路先	外務省		
氏名	永田理紗		
メジャー	国際政治論	マイナー	ヨーロッパ地域研究
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「視野と可能性を広げてくれた場所」

内定先を選んだ理由：

高校生のころから国際的な場所で働いてみたいという漠然とした思いがありましたが、就職活動にあたっては、狭い視野のまま志望先を決めてしまうのを避けたかったため、インターンシップや説明会、大学の海外プログラムに参加するなどして国家公務員だけではなく、民間企業や公的団体、国際公務員などの多くの選択肢から検討を重ねました。その結果として、FGSでの学びや自分の研究テーマ、そして模擬国連での活動において他国の大使の視点から日本外交を捉える機会を持ったことで生まれた、日本外交の独自性を生かして国際的な課題への取組みに国益を見据えながら貢献していきたいという思いの強さを再確認することになり、外交官を目指すことにしました。また、東南アジア諸国への価値観外交に興味があったことに加え、日本と中国の架け橋となられた前在日中国大使の講演会に参加し、地域や分野に精通する外交官が果たす役割の大きさとその重要性に感銘を受けたことから専門職を志望し、いくつかいただいた選択肢の中から最終的に進路として外務省専門職を選びました。

学生時代を振り返って：

FGSでの学びを振り返ると、柔軟な学びの中で、まさに「多角的に」物事をみるためのツールやきっかけを与えてもらった4年間であったと感じています。FGSが扱う学問領域は非常に幅広く、それらをバランスよく履修したり、自分と異なる専攻分野の友人と話したりすることで、偏った自分の思考や視点を見つめなおす機会を得ただけでなく、自分が踏み入れてこなかった新しい分野への興味関心を引き出してくれました。「世界を立体的に捉える」ためには、自分自身で知識や情報を日々更新し、積み上げていく必要があるのはもちろんですが、それらを総合的に組み立てて考え、解を見つける力が必要になると思います。FGSの学びの中で多くの分野、そして多くの考え方に触れたことで、分野を横断する国際課題について多角的視点の基に考える習慣は身に着けることができたと思います。今後更に、知識や経験を重ね、人間力を磨いていく中で、自分の向き合う国際課題に解を見つけるということに少しでも近づいていきたいと思っています。

FGSを目指す皆さんに伝えたいこと：

大学受験時、FGSは私の第一志望の大学・学部ではなく、後期試験で合格した国立大学との間で進学

先を迷いながら選んだ学部でした。しかし、大学四年間を終えてみて、ここに来ることができたのは私にとって一つの縁のようなものだったのかもしれないと思うほど、充実した4年間を過ごすことができました。大学が主催する様々なイベントや学部内外の授業、課外活動の全てが組み合わさってこれ以上ないほどの深い学びを得られたと思っています。どの大学・学部に行っても、進学先の選択が正しかったと思えるかどうかは、大学四年間をどれほど主体的に過ごすことができたのか、に依拠するのだと思います。FGSには自分の興味関心をとことん追求できるだけの環境と、学生を惜しみなく支えてくださる教授の方々がいます。FGSを目指す皆さんには好奇心と探求心を忘れず、そして過去にとらわれずに自分を変えていくこと恐れずに、信じる道を切り開いていっていただきたいです。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	日立製作所		
氏名	丸山遊		
メジャー	中東・アフリカ研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「限界を定めず好奇心に素直に向き合う重要性」

内定先を選んだ理由：

私は①社会インフラの構築に携わることができる②グローバルに活躍できる③挑戦し続ける環境がある、という理由から日立製作所を選びました。

休業期間に東南アジアやアフリカ諸国へ渡航し、現地の家庭に滞在した際に、日常生活において水やエネルギーなどのライフラインへ満足にアクセスできないことがいかに現地で暮らす人々の負担になっているかを肌で感じました。この経験から、より快適な暮らしを世界中に普及するために社会インフラの構築に尽力したいと思うようになりました。

社会インフラの構築に携わる数多くの業界の中でも、自らの手でインフラを創り出すメーカーに魅力を感じました。また、「ライフラインの普及」というスケールの大きな仕事に携わるためには、いわゆる「大手企業」に入る必要があると考え、世界的な地位を確立している日立製作所を選びました。利益至上主義をとらず、社会貢献を前面に打ち出してグローバルに展開する日立製作所の一翼を担うことで、持続可能な地球社会の構築に貢献したいです。

学生時代を振り返って：

私は国際協力の道へ進むことを志して FGS へ入学しました。それまで、「途上地域」への渡航経験はありませんでしたが、メディアを通して「紛争や飢餓に苦しむ途上国」の現状を見て「将来は途上国で困難に直面する人々の力になりたい」という思いを抱いていました。そんな中、大学1年次にタンザニアにおける未就学児対象の教育支援学生団体に出会い、当団体の理念や活動内容、熱心に活動する所属メンバーの姿に惹かれ入団を決めました。入団後、タンザニアへ渡航し私が目にしたのは「紛争や飢餓に苦しむ途上国」ではなく「人々の活気と子供たちの弾ける笑顔に溢れた国」でした。そんな温かいタンザニアにすっかり魅了されると共に、先入観にとらわれていた自身の未熟さを思い知らされました。この経験から、自身にとって未知の領域であったアフリカ大陸について学びを深めたいと思うようになり、アフリカ地域研究を専攻しアフリカ研究ゼミに所属しました。ゼミでは、アフリカ諸国における政治経済、歴史、文化及びアフリカ諸国と国際社会の関連性など多様なテーマの議論を通して、包括的に現代アフリカ社会への理解を深めました。同時に、『タンザニアにおける女性主体の経済活動』をテー

マに卒業論文を執筆し、男尊女卑の文化が根付くタンザニアで女性が主体となって行うビジネスが盛んに行われている社会的背景について研究しました。

大学で現代アフリカ社会と国際協力論の学びを深める傍ら、前述の学生団体の活動を通して年に2度タンザニアの家庭に滞在し、同国の現況を肌で感じられる有意義な学生生活を過ごしました。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS には国際関係論と地域研究を融合させたグローバルスタディーズを学ぶ最適な環境が整っていると思います。世界を立体的に捉える理論を効果的かつ、効率的に学ぶために用意されたカリキュラムのもと、国際政治・協力の最前線における実務経験をお持ちの先生方から学ぶことができます。さらに、国際社会が抱える数多くの課題に対して、それぞれの関心を持つ友人と互いに切磋する中で、固定概念から抜け出すと共に広い視野を育むことができます。また、休業期間にも国内外における幅広い分野の学びの機会が用意されているため、自身の学習意欲次第で貴重な経験を得ることができます。

是非、FGS でご自身の好奇心に素直に向き合い、充実した4年間を過ごしてください。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	進学		
進路先	Montpellier Business School		
氏名	D.K		
メジャー	中東・アフリカ研究	マイナー	市民社会・国際協力論
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

内定先・進学先名を選んだ理由：

上智大学に入る以前より、大学院への進学は考えていた。また、学問分野も経営学と決めており、これは大学時代に学ぶ経済学や国際関係及び地域研究で得た知識をビジネスシーンに反映し自身の手で実践しようと考えていたためである。フランスを選んだ理由としては、大学時代を通してフランス語を習得したことと、学費が低額に抑えられることに加え、渡仏経験から得たフランスの文化や生活への愛着が挙げられる。

学生時代を振り返って／FGSで何を学んだか／学んでよかったと思うこと：

大まかに二つ挙げられる。

- 1) FGSでは様々な分野の授業が履修することができる。そのため、自身の興味により、幅広くかつ専門的な知識を得ることができる。例えば自身は経済学や国際関係論を主に学びながら、文化人類学の授業や、宗教論を履修した。そのほか、心理学や国際教養学部の経営学の授業、そして舞台芸術の授業まで履修していた。異なる分野に目を向けることで、一つの学問分野に囚われることなく、より多角的な視点を持ち合わせることが可能になると感じた。
- 2) 授業で取り上げられる内容は、理論的なものから実例を用いた実践的なものまであり、複数の授業を横断的に履修することで知識の体系化を図ることができた。自身は経済学へ強い関心があったが、経済学の内容はより理論的であるように感じた。そうした内容も文化人類学などで挙げられる人々の生活実践と合わせて考察することで、より理解が深まりやすかった。

FGSを目指す皆さんに伝えたいこと：

できるだけ多くの人の意見へと耳を傾け、多様な考え方に触れてほしい。そうした上で、自分が自分らしく生きることのできる道を見つける4年間を送ってほしい。社会はますます多様化されており、一人一人の個性が尊重されつつある。必ずしも正解は一つとは限らないことを念頭に、自身の在り方を見つめ直すことのできる大学生活を存分に謳歌してもらいたい。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	大学院進学		
進路先	University of Warwick International Security MA		
氏名	西川周蔵		
メジャー	国際政治論	マイナー	中東・アフリカ研究
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「FGS のすゝめ」

内定先・進学先名を選んだ理由：

私が大学院留学を決断したのは、自分の目標を達成するために必要な外国語能力や国際関係に対する知見を深めたいからです。元々幼いころによく祖母が戦争の話をしてくれて、当時から戦争や平和に関心がありました。FGSでも戦争や平和に関して学ぶうちに、外務省や国際機関で働かれている方々のお話を聞く機会がありました。そして次第に職業を通して「平和へ貢献したい」と思うようになりました。自分にとっては敷居の高い目標であり、進路を考え始めた際は眠れなくなるくらい悩んだこともありましたが、もちろんどんな職業に就いたとしても一市民として平和に貢献することはできます。ですが、様々な国際問題がある中でその諸問題に対し最前線で取り組んでいると思えないのは歯がゆいであろうと考え、今は「平和のために最前線で活躍する」ことを目標に定めています。

これだけ立派なことを言っておきながら私には長期海外滞在経験はおろか、海外へ旅行したこともほとんどありません。そこで外国語を磨きつつ日本で培ってきた学びを客観化するために大学院進学をします。大学院留学はあまり一般的ではないですが、周りの方々に支えていただきながら、悩んで悩みぬいて出した決断を信じて今後も精進していきたいです。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

FGS の正式名称は「総合グローバル学部」ですが、その名の通り国際協力や国際経済、地域研究など多様なテーマを扱っています。私は前述したように戦争や平和に対して漠然とした興味があったため FGS に入学しましたが、専攻である国際政治以外でも地域研究を中心に多様な分野について学びました。このように FGS では個々人の知的関心に沿った履修を組むことが出来ます。私はこの FGS の特色の良さは二点あると考えます。

一つは多様な分野に触れることで自分の興味を特定することができることです。私自身戦争や平和に対して勉強したいと思っていたものの、自分が本当にその分野について関心があるか、そしてその分野において何が学びたいのかを把握していませんでした。しかし、4年間を通してそれが鮮明になり満足感のある研究が出来ました。中には関心が4年間で大きく変わる学生もおおり、FGS は自分理解を深めることができる環境であると思います。

そしてもう一点 FGS の良さとしてそれぞれの選択で違った考えを持つことができることが挙げられま

す。例えば戦争について関心を持った学生がいたとして、ある学生は地域研究を中心に履修していれば地域研究に基づいた観点から戦争について考えます。一方、国際政治に関する授業を多く履修した学生は前者とは異なる観点から戦争といった事象を分析することができるようになります。

このように FGS はそれぞれが多様な観点を育むことで個性を活かせる場です。自分の興味に出会うことで毎日が楽しく、充実し、あっという間に時間が過ぎていくように感じる、そんな素敵な学生生活を送ることが出来ます。今私のつたない文章を読んでくださっている皆様の中で FGS に関心がある方がいらっしゃいましたら、是非受験してみてください。自分の知的好奇心が刺激される感覚を味わってみてください。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（公務員）		
進路先	公務員		
氏名	Q.P		
メジャー	市民社会・国際協力論	マイナー	アジア研究
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「FGSでの学びは公務員の業務にどう生きるか」

私は、入学以前から公務員を目指していました。といっても、公務員試験に有利だからという理由で、この学部を選んだわけではありません。本稿では、FGSの学びを公務員という職業にどう活かしているか考えているか、お話しします。

高校時代、NHKスペシャルの女性の貧困特集を見て、TVの前の自分と同じ女子高校生が“生きるために”夜間アルバイトをする姿に衝撃を受けました。それをきっかけに私の関心は、ジェンダー問題や障碍に関する問題など、社会的に弱い立場に立たされやすい人へと向いていきました。そこで、これらのことについて学べそうな社会科学系の学部を片っ端から受験した結果、縁のあったFGSにお世話になることになりました。

このような経緯のため、正直に申し上げますとFGSのカリキュラムや方針は入学後に知ることになるのですが、「ジェンダーをやるなら“社会学”だ」と決めかかっていた私にとって、FGSのそれは自分の想像と少しギャップがあるように思いました。ただ、その疑念は学びを重ねていくうちに薄れていきました。今では、FGSこそ、人々が抱える問題の具体的な解決のために、様々な視点を駆使し、自ら動く力を得ることができる最高の場であると思っています。

FGSでの学びは国際政治や経済学、人類学など多岐にわたります。そしてその幅広さゆえに、在学中「自分は大学で何を修得できたのだろうか」と自問することが多々ありました。「ほかの学部だったらもっと自分の学びについて自信を持てるのかな」と想像してしまうこともありましたが、公務員試験に関して言えば、法学部や経済学部と比べて試験対策に直結する部分は多くないと言えるでしょう。

しかし、この学びは公務員として働く中でこそ輝くものではないかと考えます。その学びとは、さまざまなバックグラウンドを持つ人の存在を知ったことです。例えば、グローバル化に関する講義を受けて、米国人、中国人、といった言葉から、「〇〇にルーツのある人」という言葉遣いになりました。国家と言語に関する講義を受けて、「母国語」と言っていたところを「母語」というようになりました。このような変化は、自らの持つ「当たり前」を疑い、相対化することではじめて生じるものだと考えています。FGSの多様なカリキュラムのおかげで、いくつものバイアスに気づくことができました。「お客様」を選ばない、どんなバックグラウンドを持つ人にも対応する公務員になるにあたって、この力は大きい役立てられると信じています。

加えて、国際系の学部ということで、自分の視野も以前より広がったのではないかと思います。高校時代は、国内で起きる「日本人」の問題にしか目が行きませんでした。しかし、グローバル科目と地

域研究の両軸で、国家という枠組みを越える問題を学ぶうちに海外経験をしてみたいという思いが強くなり、大学2年時に実践型プログラムを利用して南インドへ初めての留学を経験しました。プログラムでは、現地の学生とともに講義を受けるだけでなく、プランテーション農園の見学などフィールドワークも行いました。この2週間はとても濃く、私の関心範囲をより広くしてくれました。

FGSで、私は自分が主として学ぶメジャー分野として、市民社会・国際協力論を選びました。これらは公務員の実際の職務とは一見かけ離れているように思えるかもしれませんが、そんなことはありません。たとえば、日本以外にルーツを持つ人々は、私たちの身近なところに暮らしています。彼らの人権や生活を守るための業務は、「日本国内でできる国際協力」のひとつです。

また、市民社会論を学んだことも同様です。ゼミ合宿では、NGOやNPOなど市民社会組織で働く方々に直接お話をうかがい、現場の力強さを感じました。「行政」は、時に市民社会の壁になってしまう一方で、ともに社会問題を解決するパートナーとして協働していくことも出来ます。ですので、公務員になる者が市民社会領域の理解を深める意義は大きいと感じます。

FGSから公務員を目指す人は非常に少ないですが、ここで学んだ者が公務員になる意義とインパクトは必ずあると確信しています。真の「公平・公正」とは何か、これからも考え続けながら働いていきたいです。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	その他		
進路先	JICA 海外協力隊		
氏名	平田すみれ		
メジャー	市民社会・国際協力論	マイナー	アジア研究
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「タイトル：国際協力への第一歩」

内定先を選んだ理由：

大学内の「めぐこ」という学生主体 NGO に所属し、アジアの教育支援に関わる中で現地の人たちと双方向に助け合う国際協力に魅力を感じました。「めぐこ」にてフィリピン・インドにスタディーツアーに行った際に、現地の人々とのつながり・関係づくりの大切さを感じ、現地に寄り添った対等な国際協力の在り方こそが、自分が今後もやりたいことだと思いました。2年間現地の人々と暮らし、パートナーである彼らとともに活動が行える協力隊では、それが実現できると思いました。

学生時代を振り返って：

私の大学生活は国際協力と国際交流の2つが大きなテーマだったと感じています。国際協力という多岐に渡る分野の様々な授業を取り、学内外のスタディーツアーに参加して教育開発という自分が将来関わりたい分野に出会えました。また、大学の国際寮と一年間の交換留学では、世界中の人々とともに生活し多様な環境下で大変に刺激を受けました。多様な価値観・新たな視点を得て日本や日本人の自分を客観視することができました。

FGS の授業では何をもって『開発』『発展』というのか、良くも悪くも既存概念を大きく覆されました。自分の価値観が無意識に資本主義に基づいて構成されており、上から目線的な考え方が潜んでいたことを理解しました。今まで何不自由なく、日本の中でマジョリティとして暮らしていると、見落としがちな国際協力の根底となる心構えに気づかされました。私たちが良かれと思っで行う国際協力が、現地の人には望んでいないケースや、彼らには彼らの暮らしがあることを学ぶたびに、国際協力の意義が分からなくなることも多々ありました。実践的にもカンボジアで見た水上村やイスラエル・パレスチナ間で感じた政治権力の格差は特に衝撃的で、何かしたいと勢いづいていた私は現実の厳しさに啞然としてしまいました。その時、私自身が国際協力に対して期待しすぎていたことに気づきました。また、自然と発展や開発を良いものとする価値観を自分が持っていることに対して、現地の人々の考えを聞くことで改めて気づくことがたくさんあることを理解しました。

FGS を目指す皆さんに伝えたいこと：

大学受験時は、漠然と国際関係に携わりたいという理由で総合グローバル学部を受験しました。大学に入り、FGS で政治学・経済学・人類学・社会学・ジェンダー・地域研究など、非常に幅広い学問を学

ぶ中で最終的に自分の専攻を決めることができました。FGS では自分が学びたい学問に出会うことができます！！自分が好きなことを学問する喜びを感じることができます。また、自分と似たような目標を掲げる学部仲間たちと、国際協力について語り合う時間も私にとっては貴重で、理想の自分との葛藤しつつ周囲からは日々刺激を受けていました。自分次第でやりたい事にどれだけでもアクセスできる環境下で、FGS での学びは新たな発見の連続で既存の価値観を大きく変えました。そのような充実した学生生活を振り返ると、この学部に入ってよかったと改めて感じます。

総合グローバル学部 進路 卒業生の声

進路区分	就職（企業）		
進路先	株式会社三越伊勢丹		
氏名	石 歩佑美		
メジャー	中東・アフリカ研究	マイナー	国際政治論
入学	2016年4月	卒業	2020年3月

「視野を広げてくれた4年間」

大学4年間の間に行っていた塾の講師のアルバイトで、決められたカリキュラムをこなすことよりも、生徒1人1人に合わせた気遣いや工夫の方が満足度に繋がっていると感じ、相手に合わせた価値提供のできる就職先を考えていました。インターンシップに参加した際に、お客様1人1人に合わせた丁寧な接客や独自の売り場編集などを通じて、モノそのもの以上の価値提供ができると感じ、百貨店業界に関心を持ちました。説明会やOB訪問の際にお会いした方が素晴らしい方ばかりで、自分もその方々のようになりたいと思い、就職先を決めました。

FGSでは、中東・アフリカ研究をメジャー分野として、国際政治をマイナー分野として学びました。入学当初からこれらの分野への明確な関心があったわけでは無く、1年生の時に受けた中東地域に関する授業で、それまで自分が抱いていた中東地域へのイメージが非常に偏ったものであった、と気づいたことがきっかけでした。FGSでは、国際関係論と地域研究という2つの視点から学ぶことで、ニュース等で知るのとは違った角度からの知識を得る事ができました。卒業論文では異なるアイデンティティを持つ人々の共存について書きましたが、FGSで学んだ、偏見を取り払って様々な角度から相手のことを深く学ぼうとする姿勢が、違う文化を持つ人々が共に暮らすためにも重要であると感じました。

授業だけでなく、学部の友人との出会いからも様々なことを学ぶことができました。FGSには様々な背景や関心を持つ人がおり、自分とは異なる考え方を持つ人に沢山出会うことができました。友人の話聞いて共感することや、自分が新たに関心を抱くきっかけになることもありました。

FGSでは、幅広いテーマについて様々な角度から学ぶことができます。今現在自分の関心テーマがはっきりしていなくとも、色々な分野について学んでいく中で、興味を持てる内容がきっと見つかると思います。4年間はあっという間ですから、FGSで沢山のことを学んで充実した大学生活を送って下さい。